

# 養殖瓦版

平成18年3月20日発行

(第6号)

発行：千葉県水産総合研究センター・生産技術研究室

〒295-0024 千葉県南房総市千倉町平磯 2492

phone：0470-43-1111 fax：0470-43-1114

## 養殖ブリ類の再興感染症と新興感染症について

今回は、「養殖ブリ類の再興感染症と新興感染症」について、新たな情報が得られましたのでご提供します。再興感染症とは、「再び盛んになった感染症」で、新興感染症とは、「新たに盛んになった感染症」のことです。

本県のブリ養殖では、幸いなことに近年、魚病の発生もなく順調に経過しているようですが、西日本においては、再興感染症としてノカルジア症が、新興感染症として新型レンサ球菌症（仮称）の発生が問題化しています。その対策として、農林水産省の委託を受け、(社)日本水産資源保護協会が中心となって都道府県研究機関・大学が基礎的研究を行っています。この研究でこれまでに得られた成果の概略をご説明します。

### ○再興感染症（ノカルジア症）について

養殖ブリのノカルジア症は、1970年以降、レンサ球菌症に隠れて問題化していませんでした。しかし近年、レンサ球菌症の発生は、ワクチンの普及により低減され、それに伴って医薬品の使用量が減少したため、この医薬品によって防除されていたノカルジア症が再興してきています。この疾病の病変は、結節の形成が特徴であるため、結節が形成されると医薬品の効果が低減され、被害が拡大することになります。

この疾病は、①金網生け簀での発生が多い、②ハダムシ処理回数が多いと発生が多い、③モイストペレットよりエクストルーダー飼料での発生が多いといった傾向があります。このため、ハンドリング等によるスレが、この疾病の発生に関与している可能性があり、実験的にも体表の損傷が感染助長要因の一つになることが示されています。

### ○新興感染症（新型レンサ球菌症（ランスフィールドC群レンサ球菌症））について

レンサ球菌症の被害が低減される中、2002年に新型レンサ球菌症が確認され、その後、西日本で流行っています。この疾病の病変は、尾柄部の潰瘍の形成が特徴ですが、これに当てはまらない症状も確認されています。

これまでの研究で診断技術が確立されたほか、薬剤感受性としては、エリスロマイシン、塩酸リンコマイシン及びフロルフェニコールに感受性があり、塩酸オキシテトラサイクリンに耐性があるようです。

これら疾病の対策として、ワクチンの開発が待たれますが、まだ時間を要するようです。当面の対策としては、種苗の導入の際に出荷先の疾病発生状況を確認し、特に新型レンサ球菌症を持ち込まないように留意してください。また、尾柄部の潰瘍等の異常が確認された場合、速やかに生産技術研究室までご連絡してください。